

会派行政視察報告書

会派行政視察の調査結果について、下記のとおり報告します。

令和4年8月12日

光市議会議長 中本和行様

光市議会会派 「一光会」

代表者 河村 龍男

議員 大田 敏司

議員 西崎 孝一

記

- 1 調査年月日 令和4年8月2日（火）
- 2 調査市等 公益社団法人 山口県光・熊毛地区栽培漁業協会
（上関本場及び光分場）
- 3 調査結果 別紙のとおり

調査結果

日 時	令和4年8月2日(火) 10:00~14:00	
調査市等	公益社団法人 山口県光・熊毛地区栽培漁業協会 (上関本場及び光分場)	
調査事項	協会の経営状態の把握と施設の現状確認	
説明者	栽培漁業センター 谷村事務局長	

<概要>

・上関本場において、協会の谷村事務局長より協会の役割、仕事内容について報告を聞き、また、本来の役割である中間育成と放流についての説明を受けることにより、クルマエビ、真鯛、トラフグ、キジハタ、ヒラメ、黒アワビの育成と放流について理解を深めた。

そのほか、アイナメ、ガザミ、赤アマダイ、赤ウニ、アサリについては直接放流し、健全な大型種苗を大量放流することで漁業生産の安定向上を図っている。

一方、近年の預金利息の低迷で基金の運用実績が乏しく、その分をトラフグの養殖で補おうとしたが十分でなく、平成13年よりクルマエビの養殖に取り組んで、昨年度ようやく黒字となったとのこと。もとより協会は利益を出す必要はないが、基金を取り崩すわけにはいかず苦労しているとのこと。

その後、養殖、育成現場を見ながら説明を受け、確認を行った。

生きクルマエビの種苗について、年間の作業の流れは、6月に13mm0.03gのものを26万匹、7.8kg受入れ、12月に17cm45gまでに育て、総量にして9,000kgまでにして出荷する。



(課題)

クルマエビは、普通400匹/m²あたりで育成するが、当該施設では1,200匹としており過密である。

病気を防ぐため、餌は国産の高いものを使っているが、近年価格高騰に悩んでいる。現在の池の広さでは、これ以上の数の育成はできない。

・光分場でのアワビの中間育成について説明を受け、現地確認を行った。

3cm程度になったら放流するが、放流場所は各漁協に任せている。



<所感>

クルマエビの成果品は一般販売価11,800円/kgと高価であるが、できるだけ一般販売に努めていきたいとのこと。協会の職員は5人とのことで大変な苦勞であり、関係1市3町8漁協の協力が必要なところではないか。

クルマエビの販売収益が次年度の協会運営費となっており、中間育成放流事業を実施しているのので、もう少し関係各位への説明・理解が必要と感じた。

アワビ5万尾のうち光での放流が比較的少ないのに驚いた。